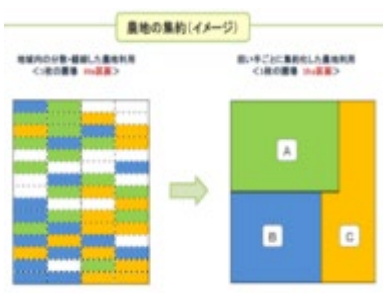
第３章　規模拡大

適正なほ場の選定を行って効率的な栽培を行いましょう



適正なほ場の選定を行って効率的な栽培を行いましょう

効率的な作業を実現するため可能な限り地域で話し合い調整し団地化に取り組みましょう。

（１）農地集積・団地化による大規模化の推進

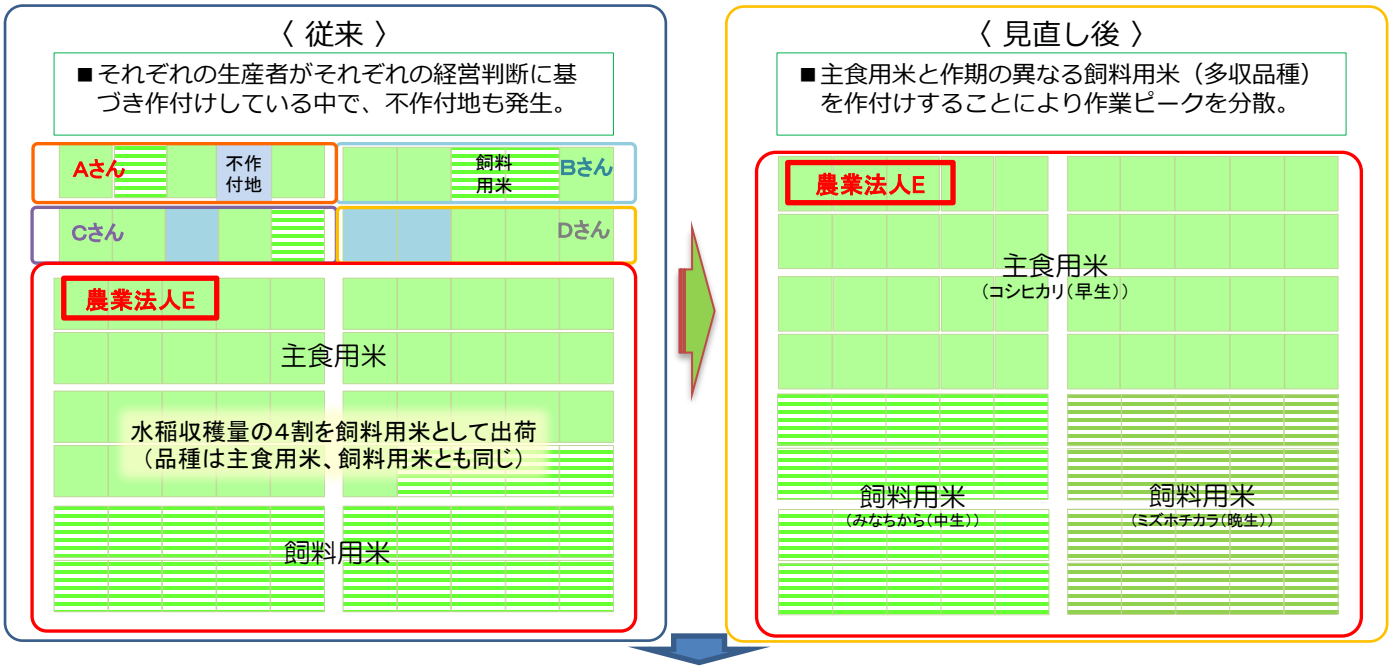
メリット

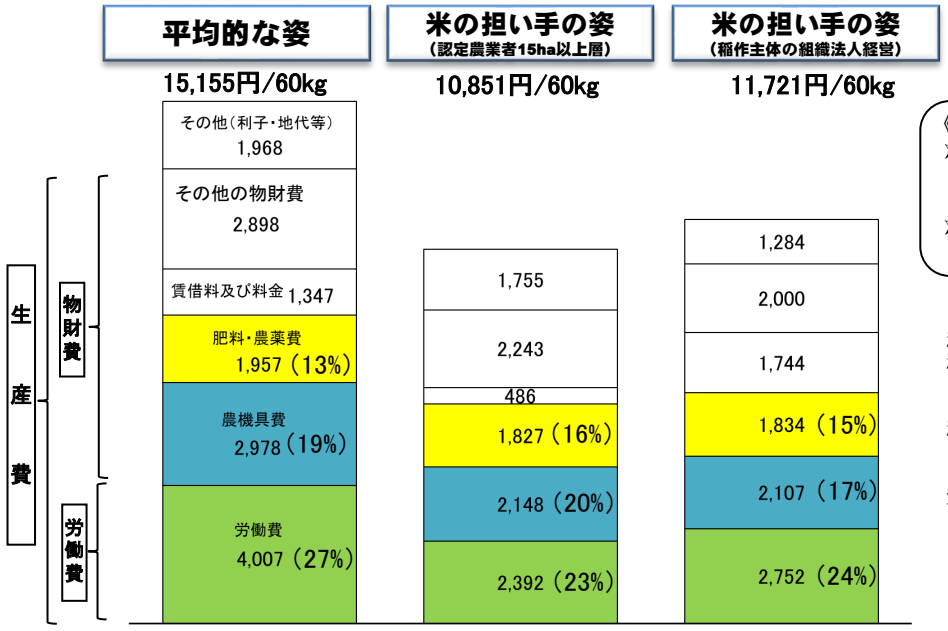
- 各種作業を複数ほ場で一貫して実施可能となるため、労働コストを低減できます。
- 飼料用米栽培ほ場を団地化し主食用米ほ場と分けて管理することで漏生イネなどによる異品種混入を避けることができることに加え、団地ごとに適した導水管理が可能となり漏水の問題などを防ぐことができます。

効果
農地集積による大規模化で生産コストを約28%低減

留意事項

- 飼料用米の栽培ほ場はできるだけ主食用米との輪作は控えましょう。





《担い手の米生産コストの考え方》
- 認定農業者のうち、農業就業者１人当たりの稲作に係る農業所得が他産業所得と同等の個別経営（水稲作付面積15ha以上層）
- 米の販売金額が第１位となる稲作主体の組織法人経営（平均水稲作付面積約29ha）

注1：（　）内は、生産費全体に占める割合である。
注2：上記の生産費は、出荷前の段階までに掛かる経費であり、搬出・出荷経費、流通経費等は含まれない。
注3：農業所得は、生産費総額から家族労働費、自己資本利子及び自作地地代を控除した額を粗収益から差し引いて算出される。
資料：『農業経営統計調査 令和元年産米生産費』

（２）作期分散による大規模化の推進

主食用米などさまざまな品種を組み合わせ、作期分散による規模拡大、機械コストの低減に取り組みましょう。

メリット

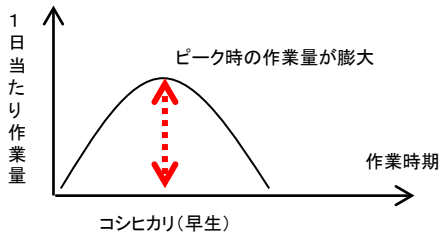
- 主食用米と作期の異なる飼料用米（多収品種）を作付けすることにより、作業ピークを分散することができます。
- 収穫機や乾燥施設の稼働率向上により、面積・収量当たりの機械費・光熱動力費の低減が可能です。
- 適期収穫をしやすくなることにより、品質の安定とともに、気象災害・病害虫被害等の危険分散が図られます。

留意事項

- 作業ピークが効果的に分散されるよう、品種ごとの栽培・施肥体系等を把握し、適切な作付け品種の選択を行うことが重要です。

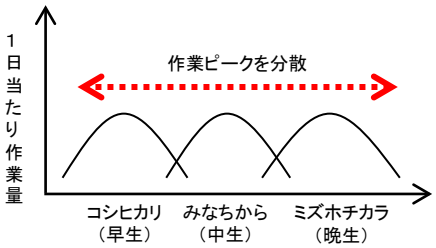
〈 従来 〉

■ピーク時の作業量の関係上、これ以上の作業（面積拡大）が困難な状況。



〈 見直し後 〉

■主食用米と作期の異なる飼料用米（多収品種）を作付けすることにより作業ピークを分散。



【参考】

■ 品種、直播栽培等を組み合わせた作期分散によるコスト低減効果

「山形県での水稲作付面積50haの事例」

品種や移植栽培、直播栽培を組み合わせることにより、春期、秋期の作期幅の拡大を図り、スケールメリットを活かした効率の良い大規模稲作経営に取り組んでいる。

1　飼料用米、主食用米の品種を限定し2つの直播栽培と移植栽培の組み合わせによる作期幅の拡大
- 移植栽培（40ha）：はえぬき25ha、つや姫5ha、べこあおば10ha
- 直播栽培（10ha）：はえぬき5ha、べこあおば5ha

品種・栽培方法		春作業の労力調整(移植＋直播)							秋作業の労力調整				
品種	移植/直播			5			6		9			10	
		中	下	上	中	下	上	中	上	中	下	上	中
はえぬき	移植				↔	↔				↔	↔		
	直播（V直、鉄ｺｰﾃｨﾝｸﾞ）		↔	↔	↔						↔	↔	↔
つや姫	移植				↔	↔				↔	↔		
べこあおば	移植					↔	↔					↔	↔
（飼料用米）	直播（V直）		↔	↔									↔

凡例　直播（鉄ｺｰﾃｨﾝｸﾞ）↔　直播（V直）↔

＜導入機械＞
- 田植え機（８条植え）：１台
- 直播機（V 溝10 条播種）：１台
- 直播機（鉄ｺｰﾃｨﾝｸﾞ８ 条播種）：１台
- コンバイン（６条刈）：１台

2　省力低コストの評価（※H24 農水省統計「経営規模：15ha 以上」参照）
- 直播、田植えに係る労働時間（時間/10a）は0.97 時間で、全国平均※（2.03 時間/10a）から52%削減し、経営全体で530 時間の労力軽減となっている。
- 10a 当たりの農機具費は16,400 円で全国平均※（20,635 円/10a）から21%削減し、経営規模では、2,118千円のコスト低減となっている。

資料：やまがたアグリネット（山形県運営の農業情報サイト）